

平成 30 年度離島漁業再生支援交付金漁業集落实績報告

令和元年 5 月 14 日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：宮古島

協定対象漁業集落名：宮古島漁業集落

協定参加世帯数：76 世帯（76 人）

（うち漁業世帯数：55 世帯（55 人））

2. 協定締結の経緯

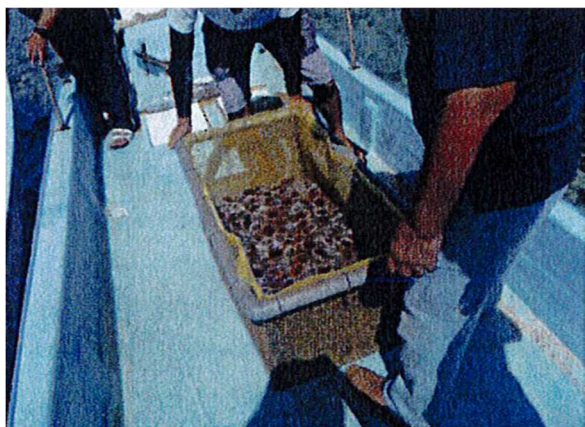
宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、良好な漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、宮古島集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

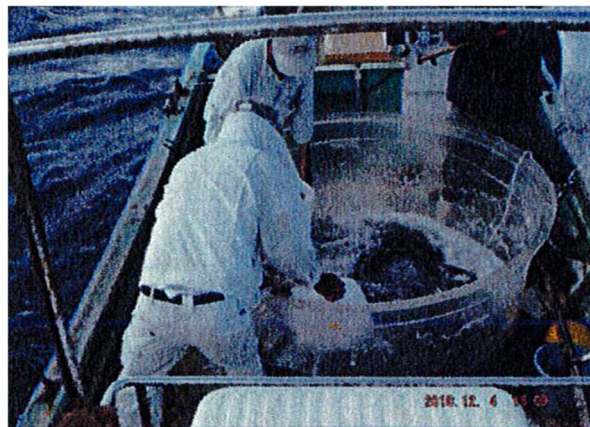
3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

種苗放流を実施し、水産資源の維持・回復を図ることとした。



種苗放流



種苗放流

(別紙2)

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

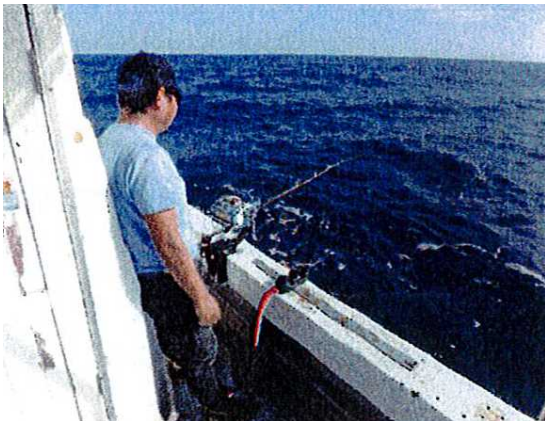
新たな漁具・漁法の導入の取り組みでは、コンプレッサーの導入を行いモズク養殖における収穫の効率化・省力化を図った。また、新規漁業への着業の取り組みでは、一人延縄漁の研修のため石垣島へ行き研修操業を行った。また、宮古島周辺海域でのキンメダイ試験操業を行った。また、高付加価値化の取り組みでは、モズク・アーサの品質向上を目的として中城・久米島への視察と仙台・熊本への視察を行った。また、流通体制の改善の取り組みでは、活エビ水槽の改良を行い食味試験を実施した。また、体験漁業の取り組みでは、中学生を対象に追い込み網体験を行い漁業の魅力発信を図った。また、魚食普及の取り組みでは、青空市場を開催し宮古島市産水産物の消費拡大を図った。また、モズクの安定生産に向けた養殖技術開発では、モズク囲い網による、糸モズク養殖の普及・定着を図った。



新たな漁具漁法の導入（コンプレッサー）



新規漁業への着業（一人延縄漁の研修）



新規漁業への着業（キンメダイ試験操業）



高付加価値化（北中城村）

(別紙2)



流通体制の改善（活エビ水槽改良）



体験漁業（追い込み網漁）



魚食普及（青空市場）



モズクの安定生産に向けた養殖技術開発

4. 取組の成果

漁場の生産力の向上に関する取組については、種苗放流により水産資源の維持・回復が見込まれ、宮古島市におけるハマフエフキ（タマン）の水揚量は、平成28年が901トン、平成29年が1,068トンとなっている。シラヒゲウニに関しては、依然として資源が少ないため放流数や場所の検討などを行い維持・回復に繋げていく必要がある。

漁業の再生に関する実践的な取組については、新たな漁具・漁法の導入の取り組みでは、モズク養殖における収穫の効率化・省力化を図った。また、新規漁業への着業の取り組みでは、新規漁業ができる海域の開拓等を行い着業へ繋げていく必要がある。また、高付加価値化の取り組みでは、モズク・アーサの品質向上を目的として視察を行い高付加価値化を図った。また、流通体制の改善の取り組みでは、流通体制の改善による漁獲物の安定供給を図った。また、体験漁業の取り組みでは、中学生を対象に追い込み網体験を行い漁業の魅力発信を図った。また、魚食普及の取り組みでは、青空市場を開催し宮古島市産水産物の消費拡大を図った。また、モズクの安定生産に向けた養殖技術開発では、モズク囲い網による糸モズク養殖の普及・定着を図った。